

平成21年度事業報告・収支計算書

特定非営利活動法人ACTION

会員の方々ならびに支援者・関係者の皆様各位

昨年で当会は設立15周年を迎えました。これまで活動を実施してこられたのも、多くのワークキャンプ、スタディツアー参加者、支援者、ボランティアの皆様を支えられて来たからだと思えます。職員を代表しまして、心からお礼申し上げます。

昨年は世界的な経済不況の中、ワークキャンプ参加者や寄付が減少し厳しい運営状況になりましたが、当会が持っているこれまでの蓄積を見つめなおし、より充実した運営体制を築くための良い機会でもありました。会計体制の充実や、ワークキャンプ・スタディツアーのプログラムの見直し、広報媒体の見直し等を実施し、今後より充実した支援活動を実施していくための道筋が見えた年でもありました。

昨年末にはより効果的な事業を実施していくために、フィリピン事務局をジャイラホーム内からオロンガポ市内に移転しました。ストリートチルドレン・盲ろう学校事業担当スタッフはオロンガポ事務局に駐在、孤児院支援事業スタッフはジャイラホーム内に駐在とし、より効率の良い事業運営を実施していきます。また、現在インターネットがないジャイラホームから事務局をオロンガポに移転することにより、これまでよりスタッフ間のコミュニケーションを取り、東京事務局との間で連携を強化して行きたいと思えます。

地域に根ざしたNGOとして活動を広げる為に開設した「フィリピン雑貨チャリティショップ」も4年目を迎え、これまでの経験を踏まえて多くのボランティアの皆様のお力をお借りして昨年10月に全面改装し、名称も「アジア雑貨チャリティショップ・サリサリ」と変更し、これまでよりも気軽に地域の方に足を運んで頂き、フィリピンや当会を知るきっかけ、そして国際協力の入口としての役割を担っていくことを期待しています。

15年間の経験をさらに発展させ、フィリピンだけではなく、日本国内でも必要とされるNGOを目指してスタッフ一同頑張っていますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

平成22年1月20日

特定非営利活動法人ACTION

代表 横田 宗

海外事業

孤児院(ジャイラホーム)自立支援事業

実施場所：サンバレス州カスティリヤホス行政区マグサイサイ町

実施期間：平成 21 年 1 月～同年 12 月

ジャイラホームはフィリピンの NGO によって設立され、孤児、虐待、育児放棄、貧困など様々な背景によって、親元を離れたこどもたちが生活する児童養護施設です。

ACTION 設立時の 1994 年から継続して支援を実施しています。

施設運営の自立・こどもたちの生活環境の向上等を目的とする本件では、本年度は下記 4 つの活動を実施しました。

●児童養護施設の自立的運営に向けた農業支援

本件はジャイラホーム内の空き地を菜園として開発することで、有機栽培によるこどもたちへの安全な食の提供、収穫物の販売による同施設の自給自足体制の確立を目的としたものです。通年の活動として本格的に活動を開始してから 3 年目に当たる本年度は、昨年に引き続き、収穫の安定と、菜園の独立採算化を目標として、苗床の作製、野菜の植え付け、栽培、市場や施設周辺での販売を行いました。

農業スタッフの 1 名が 3 月に退職となり、新たに日本アジア学院で有機農業の研修を受けたクヤママルをスタッフに迎えました。さらに 1 名の作業員を加えた合計 3 名の体制で、新たに 0.3 ヘクタールの農地を開墾した 1.3 ヘクタールを農地として利用し、ナス、オクラ、トマト、カボチャ、チンゲン菜、トウモロコシ等を栽培しました。また季節ごとの土地利用計画書・目標収穫量を現地農業スタッフ自身で作成するなど日本人スタッフから自立した土地管理・作付け計画を行うようになりました。

天候の影響や技術不足などの課題が見られ独立採算の達成には至りませんでした。収穫物は施設のこどもたちの食用として供給し、余剰分は市場等で販売することができました。

来年度は独立採算に向けてより計画的かつ効率的な土地利用計画・損益評価を現地スタッフとともに進めていく予定です。

実をつけたナス



かぼちゃ畑



●児童養護施設の自立的運営に向けたクリーニング店の運営

本件はジャイラホーム内に設置したクリーニング「Brighter Wash」の運営により、外部からの寄付に頼らない施設運営の資金的自立支援および施設の卒業生へ職業の提供を目的としたものです。開店から2年目に当たる今年度は、施設への寄付、経営規模の拡大を目指し業務用・家庭用クリーニング店の運営を行いました。またクリーニングの和光の社長である佐藤様には定期的に訪問して頂き、引き続き技術指導・経営指導を受けました。

今年度は近隣のスズキビーチホテルの鈴木様のご協力により、すべてのクリーニングを請け負うようになり、安定した受注が得られるようになりました。さらに35%の代理手数料で営業と配達を委託する外部委託制度をスズキビーチホテルが引き受けてくださり、近隣のビーチホテルからの発注が得られています。12月には家庭用受取所がホテルの側に新たに開店し、一般家庭からの発注も増えていく見込みです。

一般家庭の個人顧客は、昨年11月の家庭用受取所の設置や、発注量に応じたポイント制のぬいぐるみプレゼント、工場へ持ち込みで割引制度を設けるなどのサービス戦略も功を奏し、受注量は月々増加しています。法人顧客はスズキビーチホテル以外にビーチホテル一件と海軍学校となっており、シーズンによって受注量にばらつきはありますが、一般家庭へのマーケット拡大により安定した受注を得られており、年間集計でおよそ3分の1を個人顧客が占めるまでになっています。

これらの受注量増加により、今年度はピークシーズンの7月に利益の一部25,000ペソをジャイラホームに寄付することができ、単年度では黒字運営となりました。

来年度は隣町に一般家庭向けの受取所を開設、また引き続きビーチホテルや病院への営業を精力的に行うなど、個人・法人ともに顧客の新規獲得を図り、経営規模の拡大を目指します。

注引量に応じてぬいぐるみをプレゼントするスタンプカード



シーツ干し場



●空手を通した青少年育成プログラム

本プロジェクトは子どもたちが空手の修養を通して強い意思や規律、礼儀を身につけて社会に出ていくことを目的とした青少年教育です。昨年度に引き続きジャイラホーム内に設置された極真空手道場で現地指導員のもと週5日稽古が行われ、施設の子どもと地域の子どもが共に稽古に励んでいます。12月にカスティリヤホスで行われたトーナメントでは、入賞者3名（うち2名が施設の子ども）、1名が優勝となり、多数の入賞者をだすことができました。新たに入所した子どもも熱心に稽古に取り組む姿が見られ、子どもたちは稽古や大会を通じて自尊心が芽生え、継続した努力の大切さや、規律や礼儀を重んじる心を学んでいます。

12月に行われた大会に参加した子どもたち



●スタッフの給与支援

ジャイラホームは資金不足が深刻で、スタッフの給料未払いが頻発しています。給料の不安定性によりスタッフが頻繁に入れ替わるという事は子ども達の精神面に影響を及ぼし、

児童が健全に成長できる環境を提供するという児童養護施設の目的を果たす事が難しくなります。そこで本件ではジャイラホームのスタッフの人件費への支援を昨年に引き続き実施しました。

昨年までの会員制によるパキュット基金だけでは人件費の半額を賄っていくことが難しくなったため、今年度は会員制を廃止し当会の会計に統合する形をとり、子どもたちの世話をするハウスペアレンツ 6 名、施設長、ソーシャルワーカーの計 8 名のスタッフの給与の半月分 21,102 ペソを毎月支援しました。

ジャイラホームの子ども



ハウスマザーと子どもたち



盲ろう学校(ニニョスパグアサセンター)自立支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市オールドカバラン町

実施期間：平成 21 年 4 月～同年 12 月

ニニョスパグアサセンターはフィリピンの NGO によって運営されている、主に盲・聾啞者を対象とした自立支援施設です。当会は 2000 年より活動の支援を行ってまいりました。

本年度は口唇口蓋裂、ヘルニア患者の医療事業支援、また前年度に引き続き手話講師への給与支援を実施致しました。

●医療事業支援

同施設には、経済的な理由で手術が受けられない患者が支援を求めて訪れてきます。同施設では、患者のスポンサーを募り提携病院を探し手術を行います。今年度は 100 名以上の患者の手術を行いました。口唇口蓋裂の患者が大半を占め、その他ヘルニアや肛門閉鎖症の手術を同施設では支援しました。

本年度、当会では、10 名の口唇口蓋裂の患者と 1 名のヘルニア患者の医療支援を実施しました。ラウニオンの病院にて、10 名の口唇口蓋裂患者のレントゲン代、薬代、食費や交通費を支援しました。また、3 歳のヘルニア患者はオロンガポ市内の病院にて手術が行われました。



口唇口蓋裂の男の子（手術後）



口唇口蓋裂の男の子（手術前）

ストリートチルドレン支援事業

実施場所：サンバレス州オロンガポ市及び周辺地域

実施期間：平成 20 年 1 月～同年 12 月

ストリートチルドレン・貧困地域支援、児童の権利の啓発等の活動を行っている
フィリピンの NGO タタッグ(Tayo Ang Tinig At Gabay = 私達自身が声であり道である)と
提携して実施したものです。活動 4 年目になった本年は下記の 3 つの活動を実施しました。

●奨学生支援プロジェクト

本プロジェクトは、経済的な理由で就学が困難な貧困地域の児童への就学支援を行うもので、本年度で 4 年目の実施となりました。前年度までは、今井記念海外協力基金より助成金をいただきまして、毎年約 500 名の児童に対して、入学費用支援、学用品・制服の支給を実施いたしました。支援終了となった本年度は、前年度より募集いたしました、日本で不要になった制服や学用品を配布致しました。また、3 年間の活動により、奨学生が暮らす各地域に母親のグループができ活動も活発になり、自立に向けての資金運営も少しずつ前進しています。ところが、まだ十分ではないためタタッグと相談をし、400 名児童に対し学用品を購入し配布致しました。また、前年度に引き続き、奨学生と母親グループの活動のモニタリングを実施致しました。今後も自立的な活動を目指していくために、母親たちのグループの資金運営力強化、日本からの学用品募集システム強化が課題となります。

●コミュニティ改善プロジェクト

本プロジェクトは、タタッグが支援するオロンガポ市内及び周辺地域から要請を受けた小規模プロジェクトへの支援を行うものです。4 年目の本年は下記の 2 ヶ所での活動を行いました。

・簡易学習教室建設

実施場所：オロンガポ市マバユアンオールド

実施期間：平成 21 年 3 月

タタッグでは、現在 5 地域にて 3 歳から 5 歳の子どもを対象に ECCD (Early Child Care and Development = 就学前の子ども達のための無料の学習教室) センターを実施しています。その中でも、マバユアンオールドの ECCD センターは 5 箇所の ECCD の中で最初に始まりました。当初から、きちんとした教室を構えることができなかったため、バスケットボールコートや生徒の家などを教室代わりに利用していました。しかし、バスケットボールコートは広く、子どもたちが勉強をする環境には適していませんでした。また、生徒の家は何度も家が変わってしまうため出席率も悪く、2009 年より教室を構えるようになりました。しかし、教室が狭いため生徒が入りきらず、雨季になると教室内に雨が落ちてきてしまい、バスケットボールコートでの授業に戻ってしまいました。そこで、3 月ワークキャンプにて、2009 年より利用していた教室を一度取り壊し、より広い教室を再建設しました。教室の完成により子どもたちの出席率もあがり、授業に集中するようになったという報告を受けています。



マバユアンオールドの教室に通う生徒たち

・簡易学習教室補修作業

実施場所：全 ECCD センター（計5箇所）

実施期間：平成21年3月

タタッグが運営している ECCD センターから机やイス、教科書や文房具を入れる棚が必要だという要請があり、9月のワークキャンプにて各 ECCD が必要としているイスや棚、トイレの増築をしました。サンタリタの ECCD センターからはトイレの増築要請があり、ワークキャンプで増築しました。今まで教室の外でトイレを済ませていたため衛生的に良くありませんでしたが、増設によって改善されました。マバユアンオールドの ECCD センターでは教室のペンキ塗りを実施し、ティポ、マバユアンニュー、カラックランの ECCD センターでは、生徒に合った机とイス、また文房具や教科書を入れる棚を製作しました。

授業により集中するようになった、生徒がイスから落ちることがなくなった、生徒の字がきれいになった、雨季の間も棚があるので、教科書が濡れる心配がなくなった、と報告を受けています。



カラックランの教室での授業風景

●タタッグライブリーフードプロジェクト支援

2009年5月10日、亜細亜大学ボランティアセンターの学生がチャリティーフットサルを開催し、集まったお金をタタッグの行っているライブリーフードプロジェクト、アルミパックジュースの袋を再利用したリサイクルバッグプロジェクトに寄付していただきました。寄付して頂いたお金で、ミシンを合計4台、そして材料を購入しました。

また、ボランティアで集まった日本の大学生に当会の運営するチャリティショップに並べるジュースパックのリサイクルバッグの新品を考えてもらい、タタッグのメンバー1名が現在まで、トートバックやファイルケース、ポーチやお弁当

箱入れなどを製作していました。ミシン購入と同時に、数名のメンバーが、ジュースパック製作プロジェクトに加わり、現在、練習中です。このプロジェクトは、タタッグのスタッフの収入源やタタッグが支援している小学生から大学生の奨学制度の資金確保を目的としています。練習中のメンバーも加わり、来年度は、今年度より、多くのジュースパックを製作する予定です。



ジュースパックの製作風景

海外ボランティア体験事業

国際協力とフィリピンの子どもたちを取り巻く環境をより多くの市民の方に知っていただくために当会では設立当初の1994年よりワークキャンプという形で国際ボランティア体験事業を実施しています。

本年度は137名の方が全国から参加をして下さいました。しかし5年前には200名を数えた参加者数が年々減少してきており、その原因として経済不況や旅行代理店や大学が同じようなプログラムを実施している事や、フィリピンの治安に対する不安感が挙げられます。

国際ボランティア体験事業が占める事業収入の割合が多い当会としまして、その対策として年間を通して連休にスタディツアーを行うなど多くの方に参加していただけるプログラム作りを行っています。

●ジャイラホームワークキャンプ

- ① 平成21年3月1日～3月21日 19名
- ② 平成21年8月2日～8月21日 24名
- ③ 平成21年8月29日～9月17日 14名

本年度もジャイラホームにおいて各3週間、計4回のワークキャンプを実施し、クリーニング工場の建設作業や、農作業、孤児院に併設する小学校の増設作業等やホームステイプログラム、こどもとのイベント企画等を実施しました。

●ニニョス・タタッグワークキャンプ

- 平成21年3月4日～3月24日 8名
- 平成21年8月27日～9月16日 16名

春期に行ったワークキャンプでは提携団体であるタタッグの支援先マバユアンオールドにて、タタッグが貧困等の理由により幼稚園に通えない児童を対象に運営しているECCD (Early Child Care Development: 就学前の子ども達のための無料の学習教室) センターの教室を取り壊し、より広い教室に立て替えました。夏季ワークキャンプでは、タタッグが運営している5つのECCDセンターのそれぞれの要請に応じて、

子どもたちに合った机、教科書や文房具を入れるキャビネットを作りました。また、週末にはストリートチルドレンのためのエデュケーションに参加し、ニニョスパグアサセンターでは3週間の滞在を通して子どもたちと交流を深めました。

●スタディツアー

- 平成21年2月20日～2月26日 10名
- 平成21年8月21日～8月27日 21名
- 平成21年9月17日～9月24日 21名

スタディツアーでは1週間の日程で当会の事業地への訪問や視察、マニラのゴミ捨て場見学等を実施しました。

●イングリッシュキャンプ

- 平成21年2月6日～2月20日 4名

イングリッシュキャンプは2週間の日程で行われ、フィリピン人講師からマンツーマンで英語のレッスンを受けることができるキャンプです。日中には孤児院内の畑でワークも行いました。

国内事業

●チャリティショップ

フィリピンと日本の地域と地域、人と人をつなげるというコンセプトを掲げた本ショップは、2010年1月に開店4周年を迎えました。今年度10月から12月には、1級建築士の永田様にご協力いただき、本ショップの全面リニューアルを行いました。リニューアルにあたり、多くのボランティアの方々にも協力していただき、12月19日にリニューアルオープン致しました。店内には、当会の活動やフィリピンについてもより多くの方々に知っていただけるよう、当会やフィリピンに関する説明を記載したパネルを新たに設置致しました。

また、改装に伴い、ショップ名を「ボランティア情報センター×フィリピン雑貨チャリティショップ」から「アジア雑貨チャリティショップ『sari ✨ sari』」に変更し、アジア各国の雑貨を取り扱うこととなりました。改装後は以前よりも多くの方々に来店していただけるようになり、今年度も多くの寄付が集まりました。

なお、今年度のチャリティショップを通じた寄付は以下の通りです。

	今年度寄付額
孤児院(ジャイラホーム)	¥380,187
盲ろう学校(ニニョス)	¥110,586
ストリートチルドレン(タタッグ)	¥359,730
野菜	¥0
合計	¥850,503

※ 今年度は野菜の提供は行いませんでした。



新しくなったチャリティショップの入口



フィリピンを中心としたアジア各国の雑貨

●武蔵野市教育委員会主催

「土曜学校～世界を知る会（小3～6年コース）～」

本事業は昨年度に引き続き武蔵野市教育委員会から委託を受け、本年度6月から12月にわたり実施しました。武蔵野市内の小学校に通う小学校3年生～5年生19名が集まり、全12回の講座を行いました。各講座ではそれぞれフィリピンのバライバイ小学校に通う同学年の子どもとパートナーを組み、ビデオレターや手紙の交換、スカイプやJICAネットでの交流などを行い、むさしの国際交流まつりにも参加しました。



JICA ネットでの交流 こどもたちの集合写真

●学校教育との協働授業実践

本年度は以下の学校で協働授業を実践しました。各学校に

あわせた内容の授業を実施し、文通やビデオレターの交換を行いました。

筑波大付属小学校（6年生総合）

東京都立鷺宮高校（総合学習）

武蔵野私立第四中学校（選択社会科）

江戸川区立西葛西中学校（選択社会科）

愛知県刈谷市立かりがね小学校（4年生研究授業）

●講師派遣

フィリピンでの活動・経験を日本の地域社会に還元するため、代表の横田と日本事務局の長田を講師として各種セミナー、講演会に派遣しました。

立教女学院中学校（講演会）

東京都立杉並総合高校（選択社会科）

栃木県立宇都宮高校（講演会）

亜細亜大学（ボランティア論）

亜細亜大学（講演会）

宇都宮大学（講演会）

嘉悦大学（公共政策論）

東洋大学（非営利組織論）

早稲田大学（ワークキャンプ論）

武蔵野市教育委員会「土曜学校」

M I A 夏期教員ワークショップ

八王子国際交流教会フェスティバル（講演会）

他

●国内ボランティア体験事業

日本国内でのボランティアを通して、国際協力とフィリピンの子どもたちを取り巻く環境をより多くの市民の方に知っていただくため、本年度は国内ボランティア体験事業を実施しました。

本年度の国内ボランティア体験は、福島県南会津地方で飲食業兼農家を営む高山さまのご協力のもと田植えと稲刈り・野菜収穫を行い、11名の参加者が農作業を体験しました。6月の田植え体験は1泊2日の日程で実施し、1日目にビニールハウス内の草抜き・2日目に田植え体験を行い、7名の参加者が雨の中作業を行いました。9月の稲刈り体験は1泊2日

実施し、1日目はにんにくの仕分け作業・2日目に稲刈り体験を4名の参加者とともに行いました。両日程とも夜に食料に関する学習を行い、日本とフィリピンの農業・食料を考える時間となりました。

収穫されたお米は、2010年2月に当会の支援する盲ろう学校ニニョスパグアセンターへ送る予定です。



田植えの様子



稲刈りの様子

●ワークキャンプフォーラム

（1月10～11日、7月4～5日、10月4～5日）

本事業はワークキャンプの普及を目的として国立中央青少年交流の家が主催するもので、当会は2007年度より運営委員として関わっています。本年度は1月、7月、10月に3回開催しました。10月のワークキャンプフォーラムでは各団体の合同事後研修として行い、団体を超えてワークキャンプの体験談を共有しました。

●ボランティア派遣

昨年度に引き続き本年度も三鷹市にある児童養護施設朝陽

学園や日の出太陽の家へボランティアを派遣しました。派遣項目は以下のとおりです。

1) 朝陽学園

- ・ 週末遊びボランティア (随時)
- ・ こどもまつり (9月)
- ・ バザー (10月)

2) 日の出太陽の家

- ・ 花咲きまつり (5月)

●国際協力・交流イベント及び地域イベントへの参加

1) 武蔵野国際交流まつり(11月15日)

地域での認知度向上と団体間交流を目的とし、昨年度に引き続き参加しました。

活動紹介のパネル展示、アジアの雑貨・お菓子の販売、フィリピンのビーズを使ったアクセサリー作りのワークショップ、フィリピンの遊びなどを実施しました。ブース内は常に子どもたちで賑わい、遊びや品物を通してフィリピンの文化を身近に感じてもらうことができました。また、一緒に来ていた保護者の方とも話す機会ができ、地域の人との交流を深めることができました。



●会員企画

当会の会員様が主体的に活動を企画・運営する活動です。本年度、以下のような活動がありました。

1) チャリティバーベキュー (7月12日)

本企画は過去に当会主催のワークキャンプやスタディツアーに参加したことがある方はもちろん、当会の活動に関わりのある人同士の交流を深めることを目的としたもので、本年度初めて開催されました。

当日は約25名の方に参加していただき、バーベキューを通して交流を深めました。



2) フリーマーケット (MSD)

本企画は2009年3月のジャイラホームワークキャンプに参加した方々が中心となり、孤児院ジャイラホームへの支援を目的としてフリーマーケットに出展し利益を当会へ寄付してくださるとい活動です。

今年度は関西で2回、関東で4回行い合計38,670円の寄付が集まり、12月12日には全国一斉フリーマーケットとして全国にいる過去に当会主催のワークキャンプやスタディツアーに参加した方々に呼びかけを行い、関西、関東、長崎、山梨のフリーマーケットに出展し計24,000円の寄付が集まりました。

3) 出張チャリティショップ

本企画は大学の学園祭や地域のお祭りなどのためにチャリティショップの品物の貸し出しを行い、チャリティショップと同じ仕組み(寄付を頂く代わりに品物を差し上げる)で出張チャリティショップをしていただくという活動です。今年度は福島県国際課や成蹊大学、愛知学院大学で出張チャリティショップが行われました。

4) チャリティお料理教室

本企画は、国際協力と当会の活動への理解を目的に行われ、参加費の一部である38,211円が当会へ寄付されました。神奈川県川崎市で第1回が開催され、主催会員の友人を講師として迎えインド料理を作りながらインドの文化や生活への理解を深め、同時に当会の活動の報告も行いました。今後も定期的に活動していく予定です。

当会では様々な企業と連携することにより、多角的な視点からフィリピンへ関わり、企業の特徴と当会の特徴を活かした協力を実施していきます。それにより多くの市民が参加しやすい国際協力を目指します。

1・柴田園（千葉市内の農家／農地 25 ヘクタール）

概要： 当会が運営するチャリティショップに低農薬野菜を週1-2回無料で送って頂き、店頭と並べます。そこから得られる寄付で孤児院の自給自足プロジェクトを実施します。また、柴田園社長の柴田様が定期的にフィリピンを訪れ計画策定と技術指導を行います。<http://ameblo.jp/action-jireh/>

*今年度、3月に柴田様が亡くなられ、チャリティショップの野菜の取り扱いが終了となりました。フィリピンでの計画策定・技術指導も今年度は行われませんでした。昨年度までの指導に従って現地スタッフが農業自給自足に向けて努力を続けています。

これまでの主な成果：

- ・農地の年間を通した計画を作成
- ・ビニールハウス2棟
(現地ロータリークラブの協力もあり)
- ・農業専門家2名の雇用(非常勤)
- ・農業従事スタッフ1名の雇用(パートタイム)
- ・子ども達への野菜の安定供給(オクラ、ナス、かぼちゃ、トマト、とうもろこし、唐辛子、パパイヤ、豆、苦瓜等)
- ・市場での販売(2008年1月より余剰分を近隣マーケットで販売)

2・クリーニングの和光（西東京に本社を置くクリーニング会社／13店舗）

概要： 2008年3月にオープンしたジャイラホーム内にあるクリーニング工場では、孤児院の運営資金獲得と就労の場となる事を目指し、現在、施設の卒業生が工場長を務めています。オープン当初は法人向けのクリーニング工場として運営していましたが、11月よりカステリヤホスマーケットの一角に店舗を構え、一般の方も対象にしています。
収益の50%は孤児院運営へ、50%は当会と振り分けられ孤児

院以外での活動にあてられます。

現在の状況：

クリーニングの和光社長の佐藤様が1、2カ月に1度訪れ、技術指導及び機器のメンテナンスを実施してくださっています。またクリーニングの和光13店舗の持ち帰り袋(有料)代金が当会への募金となっており、このクリーニング事業にも活用されています(年間30万円程度)。現在は、ビーチホテルの並ぶパレート地区を中心に顧客獲得に向けた営業活動を実施しています。また、カステリヤホスマーケットにある店舗では、少しずつ固定客が付きはじめ、1日に13家庭が来店することもあります。今後は、法人向け、一般家庭向けともにより多くの顧客獲得を目指しています。

*クリーニングの和光13店舗での募金に関しては1ヶ月毎に報告を作成し、本社で展示しています。

3. I-merge online International（マニラと浅草橋が拠点のIT企業）

概要： IT技術を生かした社会貢献として協働でビジネスモデルを構築中。会社が手がけるオンライン英会話学校のシステムをそのまま活用し、タガログ語オンラインレッスンを開校(2008年1月)<http://www.actionman.jp/tagalog.html> 利益配分は会社と当会で50%ずつ。

4. 株式会社アローズアップコスメティクス オーピーアイジャパン株式会社

概要： 一般の方が気軽に国際協力に参加できるようネイリストである関原様のご協力のもとチャリティショップ内でチャリティネイルサロンを開催し、利益を当会への寄付とする活動です。その際に使用するジェルやマニキュアの物品提供を行ってくださっています。

また、株式会社アローズアップコスメティクスの代表取締役である久野様もチャリティネイルサロンを開催して下さり、利益を寄付して下さる予定です。

4. 株式会社マーキュリーシスコム

概要：国際協力機構（JICA）の「NGO 組織強化のためのアドバイザー派遣制度」を利用し、当会の web 使った広報能力強化アドバイザーを担当していただいています。

（2010 年 1 月 20 日終了予定）

当会としましては出来るだけ企業にあった CSR を提案もしくは協働で実施したいと考えています。また CSR に使う資金を生み出すビジネスモデルや寄付の仕組みを常に念頭に入れながら、双方にとって負担が少なく継続していける取り組みを目指しております。